

その手順は先ず十字線を対物レンズの焦点位置におき、次に接眼レンズを正しい位置に調節するわけであるが、これが容易にできるように設計されたファインダーは少ない。この点もメーカーが出荷前に調節すれば問題は解決する。

5. むすび

日本のすべての国民が学習すべき内容については、その教育を担当するすべての教員が指導できなければならない。これは重要な原則である。

新 刊 紹 介

宋元時代の科学技術史 藪内 清編、(京大
大学人文科学研究報告、同所刊、1967、B5判、468
頁、非売)。

本書は藪内氏が研究代表者となって実施された共同研究の成果報告である。唐宋以降、中国社会が大きく変わったことは学界の通説である。唐、五代の混乱から立ち直って、宋元で科学技術の復興と開花が見られる。これを捉えることがこの共同研究の目的であるから、内容は天文学に限られていない。然し元で編集された授時暦は江戸時代初期以来、わが国の曆家に与えた影響は大きい。この意味で、天文学史だけに興味を持つ人に対しては本書第1章の宋元時代における科学技術の展開、第4章の宋元時代の天文学、また第3章の宋元時代の数学(何れも藪内氏執筆)は、わが国の近世天文学史の源流を知るものとして一読をおすすめしたい。また科学技術史全般に興味を持つ人々に対しては、宋元時代という中国科学技術史上の重要年代における自然哲学、医療、本草、軍事技術、生産技術、酒造、其他について多くの研究者の研究成果が集録されていることを紹介し、一読をおすすめする次第である。(広瀬)

星座写真集 藤波重次編著、(共立出版株式会社
発行、1967、カラー3図、21×19cm、129頁、定価
750円)。

「写真による星座の観賞と学習」というサブタイトルがついているように、普通の小型カメラによる広角星座写真を星座別に配列した写真星図を兼ねることをねらったものである。著者は天体写真だけではなく、写真学の権威者の一人であり、既に同じ発行所から「小型カメラ

小・中・高校における教育内容の天文分野は、戦前に比べて飛躍的に増大した。これは大変に結構なことであるが、まだ十分に消化されておらず、他の分野に比べてまだまだ不十分である。これについては純教育学的見地から種々検討され、教員の研修も行なわれ、それなりの効果があらわれているが、この稿に書いたような基本的教具についてはまだ十分な検討が加えられていないように思われる。天文学の専門家やアマチュアの協力をも求めてすみやかにこの点の解決をはかりたいものである。

の撮影技術」、「小型カメラによる天体写真」などの著書を世に送られている。本書はこの「小型カメラによる天体写真」の実践部に当るもので、毎ページにくわしい撮影データと共に、大部分著者が写した星座写真がある。最後に参考写真集として銀河の集成写真、池谷・関野星、月、太陽、日食の写真がある。カラー写真口絵としてオリオン座星雲、アンドロメダ座星雲、ヒヤデス星団とそのスペクトルが示されている。天文写真の同好者地学教育関係者などにとって無二の参考資料であらう。(広瀬)

宇宙とはなにか 宮本正太郎著、(ブルーバック
クス100、講談社発行、1967、新書版、205頁、定価
250円)。

ふつう宇宙を論じた天文書は非常に客観的な立場をとり、その中での人間というものは全く無視されていることが多い。しかし本書では、人と共に宇宙を見る立場がとられ、星雲の巨大宇宙の問題は比較的簡単に取り扱われ、主力が著者の専門領域の月、惑星に注がれている。有機的の立場から「宇宙とはなにか」という問題にとり組んだ異色ある本として会員諸氏に一読を御すすめる。行文の平易は定評のある所、153箇の図と共に諸氏自身を「宇宙とは何であるか」の問題にひきずりこんでしまうであらう。(広瀬)

学会だより

◇秋季年会旅費補助の締切り 7月号でお知らせしました、秋季年会の講演者で旅費の補助を希望される方は、9月20日までに本会(支部理事)に申し出て下さい。

◇東京天文台公開 毎年秋に行なっている東京天文台の公開(本会後援)を、今年は10月14日(土)午後に行なうことになりました。

昭和42年8月20日

印刷発行

定価 100円

編集兼発行人 東京都三鷹市東京天文台内

印刷所 東京都港区西新橋2丁目22番6号

発行所 東京都三鷹市東京天文台内
電話武蔵野 45局(0422-45) 1959

広瀬 秀雄

東京学術印刷株式会社

社団法人 日本天文学会
振替口座東京 13595